

2025 年度 花さきデイサービス 事業報告

1. 施設の概要

事業の種類	介護保険法に基づく介護予防・日常生活支援総合事業・通所介護事業
定 員	合計 20 名
対 象	要支援 要介護と認定された方
そ の 他	営業日：月曜日から土曜日 休業日：日曜日、12 月 30 日～1 月 3 日 サービス提供時間：9：00～16：30

2. 職員配置数

(1) 職種別人員 2026 年 3 月 31 日現在 (単位：人)

職 種	専 任	兼 任
管理者	0	1
生活相談員	0	2
介護職員	3	1
看護職員	0	5
機能訓練指導員	0	5
合計	3	14

3. 利用、支援状況

(1) 一日の流れ

時 間	項 目	内 容
8：00	朝礼迎いの車準備	利用者の確認、順次迎いに出かける
9：00	送迎車到着	順次到着し職員が出迎える
	健康チェック	看護職員が血圧、体温、脈拍を測定しケアカルテに入力する
	朝礼	
10：00	脳トレーニング	計算問題や間違い探しなど脳トレーニングを行う
	入浴	入浴希望者に入浴介助の提供を行う
	個別機能訓練	個々の目的に応じた機能訓練を行う
11：30	歩行練習	テレビ体操終了後 廊下 2 周の歩行練習を行う
	口腔体操	昼食前に口のマッサージなど口腔体操を行う
12：00	昼食、休憩	
13：15	作品づくり	季節の作品づくりを行う
14：00	集団レクリエーション	担当者がゲームや体操など計画を立て行う
	歩行練習	テレビ体操終了後 廊下 2 周の歩行練習を行う
15：15	喫茶	コーヒーや紅茶などを飲みながら談笑される

	帰宅準備	トイレや着替えなど帰宅準備を行う
16:00	下肢の体操	かかと上げや足ふみなどを行う
16:15	送りの車出発	各送迎車に送迎を行う

(2) 平均介護度 1.89

(3) 平均年齢 86歳 最高齢 99歳 最年少 74歳

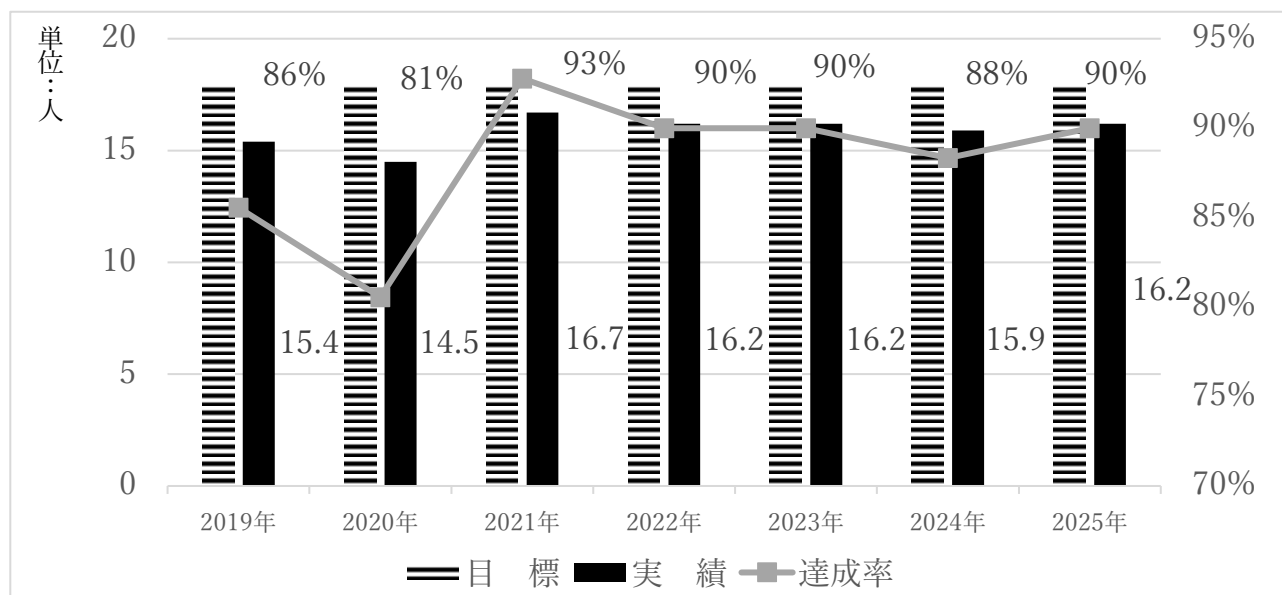
(4) その他

- ・外出先（4月：桜ドライブ、芝ざくら見学 5月：辻川公園ドライブ
6月：あじさい見学 7月：喫茶店外出 10月：祭屋台見学
11月：紅葉ドライブ 1月：初詣 2月：観梅ドライブ
3月：菜の花ドライブ）
- ・福祉体験会（福崎小学校、八千種小学校、福崎東中学校、福崎西中学校）
- ・定期行事：コンビニ買い物、カレンダー作成
- ・地域連携：西治区、新町区

4. 目標と実績

単位：人

	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
目 標	18	18	18	18	18	18	18
実 績	15.4	14.5	16.7	16.2	16.2	15.9	16.2
達成率	86%	81%	93%	90%	90%	88%	90%



5. 目標達成率

平均利用者数/日	目標	結果	達成率
	18 名	16.2 名	90%

(1) 目標未達の要因

2025 年度（令和 7 年度）は、新規利用者 14 名に対しサービス利終了者が 15 名となり、利用者数が純減した。その結果、目標としていた平均利用人員 18 名を達成することができなかった。

主な要因は以下の通りである。

- ① 利用終了者（入院・入所・死亡等）が新規利用者数を上回った
- ② 下半期において新規利用者の紹介件数が大幅に減少した

これらに対し、居宅介護支援事業所への訪問や空床情報の提供、体調変化の早期発見と医療機関との連携による重度化予防、家族への介護負担軽減に向けたアドバイスや柔軟な利用の提案など在宅生活継続に向けた支援を行ったが、以下の点で十分な成果につながらなかった。

- ・新規申請者自体の減少に対する代替的なアプローチ（早期関係構築・予防層への働きかけ等）が不足していた
- ・既存利用者の利用継続に向けた重度化予防や家族支援の取り組みが十分とは言えなかった

(2) 地域との連携

認知症カフェ「にんかふえ楽笑」を福崎図書館にて開催し、平均 12 名の参加があった。認知症への理解促進に一定の効果が見られたほか、福崎町民生委員全体会への参加を通じて啓発活動を行うことができた。

また、西治区・新町区のミニデイサービスに参加し、体力測定やミニ講話を実施したことで、地域住民に施設の認知度向上につながった。

さらに、小中学校の福祉体験への協力や、福崎西中学校入学式への胸飾り提供を通じて、若年層への福祉理解の促進および施設への親近感を持っていただく機会となった。

(3) 居宅介護支援事業所との連携

新規利用者の確保に向けて居宅介護支援事業所への訪問活動を継続して実施したが、下半期において介護保険新規申請者数の減少があり、紹介件数の増加には至らなかった。

一方で、福崎地域包括支援センターへの定期訪問は継続して実施できており、12 か所の居宅介護支援事業所および 2 か所の地域包括支援センターとの連携体制は維持できている。

（４）職員の資質向上

オンライン研修会（認知症研修等）に参加し、専門知識の習得に努めるとともに、にんかふえ楽笑へ職員が参加することで実践的な学びを深め、認知症ケアの質の向上につながった。

また、委員会活動を通して、部署内での意見交換や業務の見直しを行った結果、情報共有が迅速になるとともに、業務改善への意識向上が図られた。

さらに、役割分担を明確にしたことで業務の分担が進み、業務の偏りが軽減されるとともに、業務効率の向上につながった。加えて、職員間で意見を出しやすい雰囲気ができ、円滑なコミュニケーションのもと、ケアの統一性の向上につながった。